

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

| | | | | | | | |
|--------------------|--|---|--|-----------------------------|--|---|--|
| 事業名 | | 水源地域等保安林整備 | | 路河川名等 | | — | |
| 事業毎の通番 | | 1 | | 市町村名 | | 諏訪市 | |
| 事業目的 | | 地質脆弱・地形急峻のために、渓岸侵食や土砂堆積が顕在化してきているほか、質の低下した森林や、過去に施工された施設の老朽化が見られ、治山対策による流域の安定化が必要な状況にある。 下流域には、住宅地や高速道路等の重要な保全対象が存在するため、今後の豪雨等により土砂流出へと至った場合、多大な被害が発生する恐れがあることから、床固工、護岸工、山腹工、森林整備により流域の安定化を図り、併せて老朽化した谷止工の機能回復を図る。 | | 箇所名(ふりがな) | | 大熊(おおぐま) | |
| 事業概要 | | あわせ信州創造プランにおける位置付け | | 事業実施の根拠法令等 | | 森林法 | |
| 関連する事業、計画等 | | 4-1地域防災力の向上 | | 事業実施の根拠法令等 | | 森林法 | |
| 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | | 人家30戸、公民館1棟、高速道路390m、市道750m、林道300m | | 事業実施の根拠法令等 | | 森林法 | |
| 着手年度 | | 平成29年度 | | 事業期間 | | 4年間 | |
| 完成年度(見込み) | | 平成32年度 | | 費用対効果 | | 4.95 | |
| 全体事業内容(主な工種) | | 谷止工(コンクリート)2基、護岸工(鋼)L=210m 床固工(コンクリート)3基、山腹工0.02ha、森林整備7.1ha | | 事業費(千円) | | 196,000 | |
| 年度事業内容(主な工種) | | 谷止工(コンクリート)1基 | | 事業費(千円) | | 35,000 | |
| 事業効果 | | 直接的効果(定量的・定性的) | | 間接的効果(定量的・定性的) | | 荒廃溪流・崩壊斜面の安定、土砂流出の抑止、老朽化した既存施設の機能回復 人家、高速道路、市道、林道の保全 災害に強い森林づくり 自然環境の維持・保全 | |
| 必要性 | | ○人家戸数: | | 30戸 | | 評価 | |
| 重要性 | | ○過去の災害履歴: | | 有 | | 平成21年8月豪雨災害 | |
| 効率性 | | ○費用対効果(B/C): | | 4.95 | | 評価 | |
| 緊急性 | | ○流域の地形、地質: | | 火山噴出物 第三紀火山岩類(流紋岩質~デイサイト頁岩) | | 評価 | |
| 計画熟度 | | ○事業情報の共有: | | 関係者を中心に周知 | | 評価 | |
| 部意見 | | 過去に土石流が発生した箇所であり、放置した場合下流保全対象に流下する恐れがあるため、対策工事を行う必要がある。 | | 行政改革課意見 | | 流域内には不安定土が存在し、今後の降雨等により土砂流出の恐れがあるため、重要性が高く、緊急性も認められる。 | |
| | | 評価結果 | | 総合評価 | | ○ A | |

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

【整備の必要性がわかる状況写真等】

【災害緩衝機能の発揮】

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景
平成21年8月豪雨により土石流が発生し、下流域を通る県道が2週間間通行不能となる被害となった。この災害を受けて、緊急的に砂防えん堤や谷止工が施工され、早期に必要な工事は平成26年度で完了した。
一方、その後の降雨等により、土石流により攪乱された渓岸や山腹斜面において侵食、異常堆積、崩壊が顕在化し始めている。また、森林の質の低下(倒木、過密化)や、昭和時代に施工された谷止工の老朽化が見られ、災害の未然防止のために、さらなる治山対策による流域の安定化が求められている。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり
従前から、区・地権者による流域パトロールや、道路の簡易な維持管理(落石除去等)が実施されており、平成27年度の流域パトロールの結果、渓岸侵食や荒廃森林等が発見された。
これにより平成28年2月1日に、大熊区長より県へ「災害に強い森林づくりのための森林整備の促進」「保安林の機能強化」について要望書が出され、平成28年3月24日に県・市・区・地権者とで現地調査を実施し、今後の対応を協議した。

③事業説明等の経緯
平成28年3月24日の現地調査の際に、区・地権者へ県と市から対策方針を説明して了解を得た。
今後、事業実施が具体的にいった段階で、地域住民への説明会を開催する予定である。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連
特になし

⑤自然環境・生活環境への影響と配慮
コンクリート構造物のみに頼るのではなく、土砂流出を抑止するための渓畔林の造成など、森林の持つ機能を活かし、自然環境に調和した整備を取り入れる。

⑥地域活性化への影響と配慮
本事業を契機に、さらなる地域主体の里山保全と山地防災(住民による流域の点検、森林管理等)を促していく。

⑦その他
最新技術である航空レーザ測量による立体地形図や森林解析結果を活用し、流域の地形や森林特性を踏まえた合理的な工種・工法を検討している。

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 35° 59'53" 66
東経:E 138° 6'12" 55